

(5) 東海



東海地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

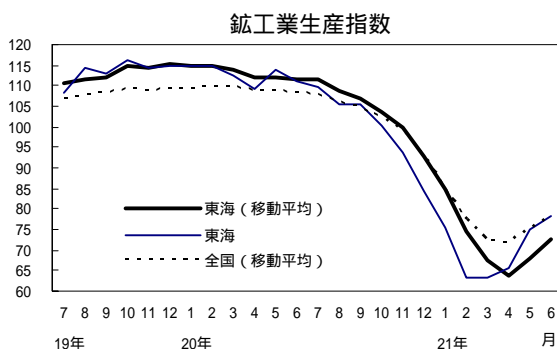
前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
景況判断	悪化	下げ止まっている	
鉱工業生産	下げ止まりの兆し	持ち直している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

輸送機械は、乗用車や自動車部品を中心に増加している。一般機械は、動力伝動装置や機械工具が下げ止まりつつあるものの、金属工作機械が大幅に減少していることから、減少している。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路やテレビ向け液晶素子が増加している。プラスチック製品は、工業用製品、フィルム・シート・合成皮革を中心に増加している。化学は、無機薬品、プラスチックを中心に増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	37.5	34.7	14.8	15.1	24.1
一般機械	12.7	30.2	25.0	17.5	14.5
電子部品・デバイス	6.8	25.3	38.6	30.9	0.2
プラスチック製品	5.4	22.4	14.6	11.6	0.8
化学	5.0	6.2	3.8	8.2	8.5
鉱工業	100.0	27.5	8.2	9.4	5.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

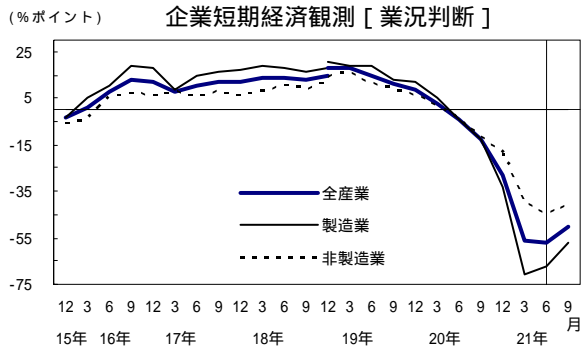
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

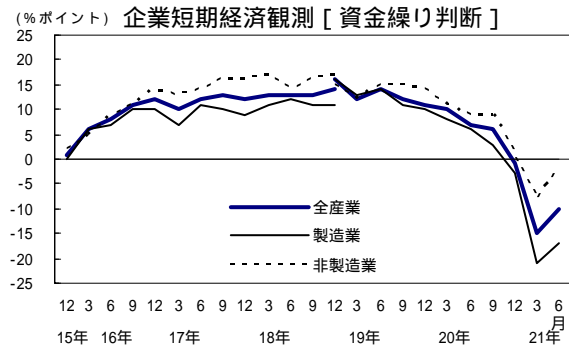
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

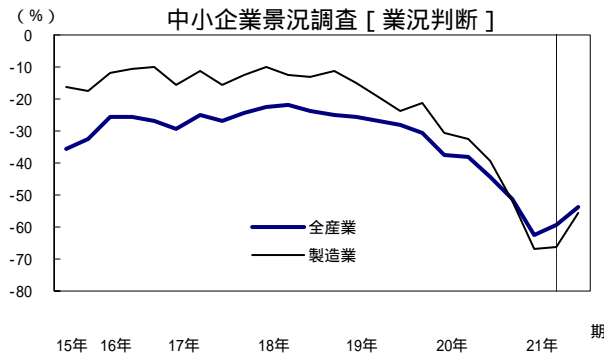
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

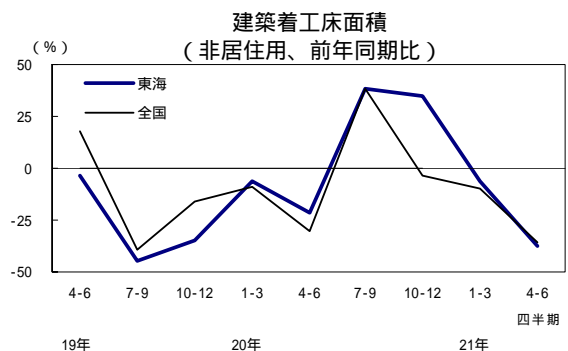
「取引先からの見積り依頼が多いが、同業他社と運賃比較をするのみで最終的には運賃を下げる材料となっており、じりじりと運賃水準が下がっていく傾向にある(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	6.7 [1.4]	22.9 [4.4]
製造業	10.8 [4.7]	40.8 [7.2]
非製造業	0.3 [3.9]	3.0 [0.0]

(備考)[]は前回(3月)調査結果。



2. 需要の動向

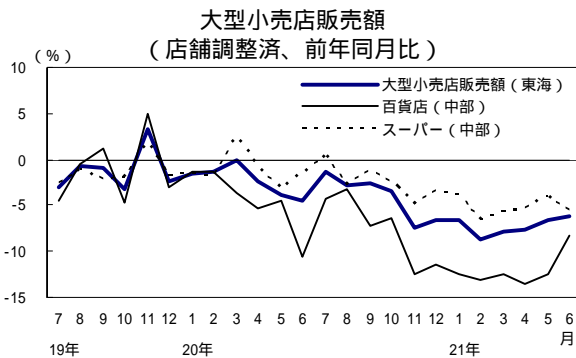
(1) 個人消費は緩やかに減少している。

大型小売店販売額

百貨店は、4月は、物産展は好調だったものの、主力の衣料品や高額商品が引き続き不振だったため、前年を下回った。5月は、主力の衣料品や高額商品が引き続き不振だったほか、母の日商戦における単価の低下もみられ、引き続き前年を下回った。6月は、中元商戦とクリアランスセールの前倒しを行った結果、前年比マイナス幅が縮小した。日本百貨店協会によると、名古屋市内の7月の売上高は、前年同月比で12.6%減となっている。
スーパーは、飲食料品が堅調に推移したものの、衣料品の不振や商品単価の下落から、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「客単価は依然として95%前後と低迷している。特売時のまとめ買いや、第3のビールなどは非常に好調に推移している。梅雨明けの遅れにより、衣料品は非常に動きが悪く、早めに値下げしても処分できない状況である(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



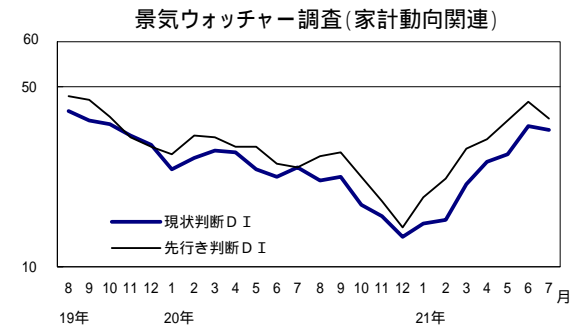
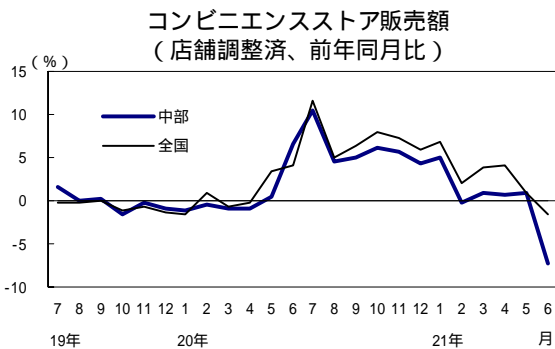
	(前年同期比、%)			
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	2.3	5.9	7.5	6.8
百貨店	4.9	10.4	12.6	11.4
スーパー	1.3	3.6	5.2	5.0
乗用車	0.3	14.6	24.2	19.5
景気ウォッチャー	30.5	20.5	22.8	36.5

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

百貨店、スーパーは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

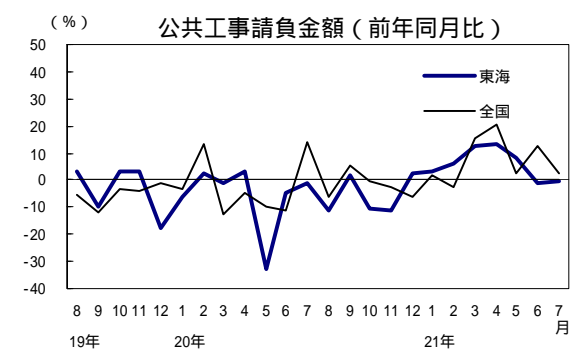
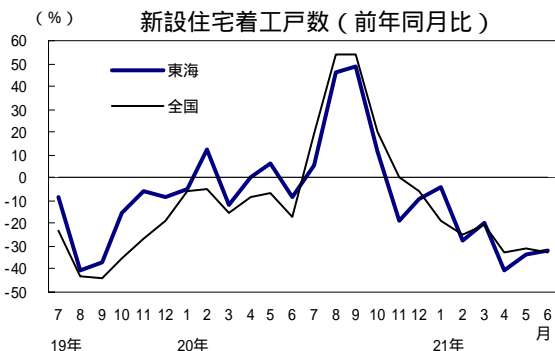
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

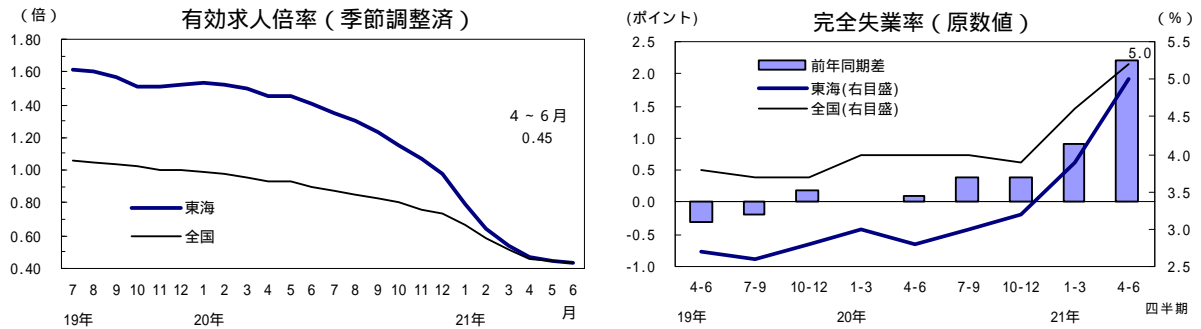


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

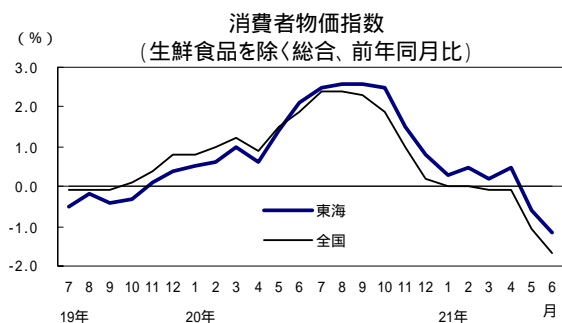
「企業の早期退職制度で退職した求職者の登録が増えている(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数	345	343	414	328	134
(前年比)	1.1	3.3	20.7	1.2	11.7
負債総額	744	1,367	2,310	1,547	266
(前年比)	62.6	82.2	128.3	13.8	22.6



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・景気対策の高速道路料金引下げにより、休日のマイカー利用の観光客数は増加しているが鉄道は空席が目立つ。全体的には、レジャー経費のうち、観光地での消費額は多少増えている(一般小売店[土産])。

<先行き>

・10月からは、例年通りの予約状況にあり回復が見込める(人材派遣会社)。

